



中北地域は、八ヶ岳や南アルプスをはじめとする雄大な自然に囲まれ、武川米に代表される米、ブドウや桃などの果物といった、清らかな水と太陽が育むおいしいものがたくさんあります。その一方、教育環境、医療施設などの生活機能が充実しており、快適で便利な生活を送りつつ、少し足を伸ばせば、自然の中で四季の移ろいを感じたり、山登りなどのアクティビティを満喫したりすることができます。田舎と街が共存していて、自分らしい暮らしを選べるのがこの地域の魅力です。

甲府市 | 韮崎市 | 南アルプス市 | 北杜市 | 甲斐市  
中央市 | 昭和町

# 中北地域



# 甲府市

Kofu City

人口: 186,063人  
世帯数: 93,972世帯  
総面積: 212.47 km<sup>2</sup>  
人口密度: 875.71 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



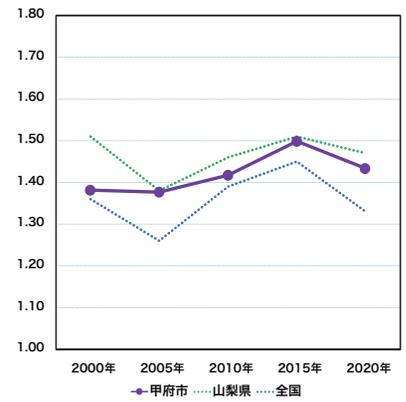
合計特殊出生率  
(2018年~2022年)

# 1.43

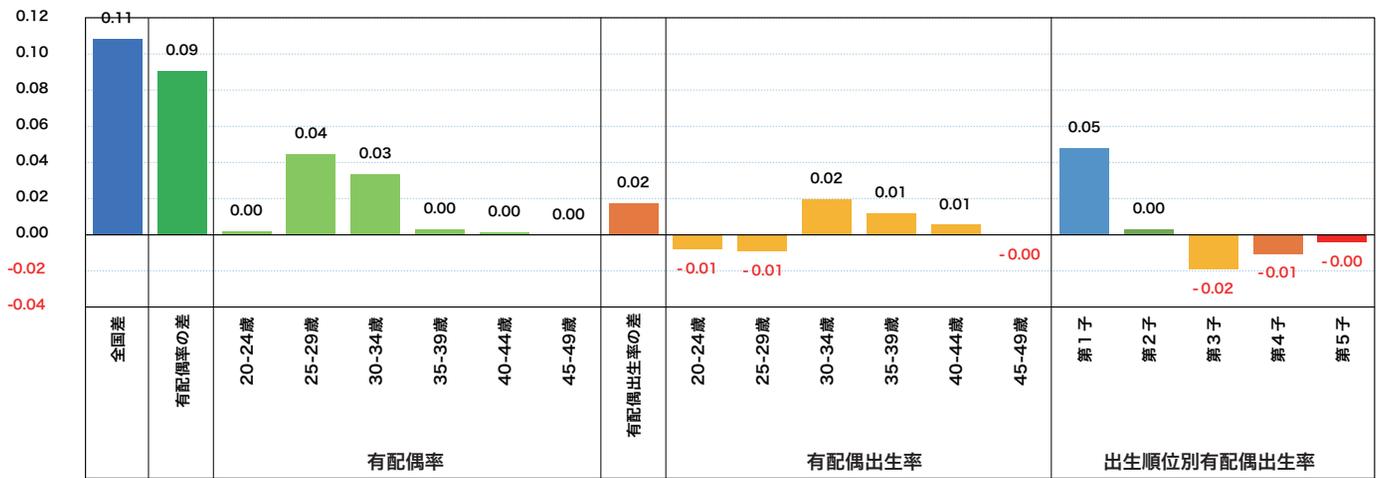
ベイズ推定値 **1.43**

合計特殊出生率(2018年~2022年)の  
全国との差 **+0.10**  
ポイント  
県内との差 **-0.03**  
ポイント

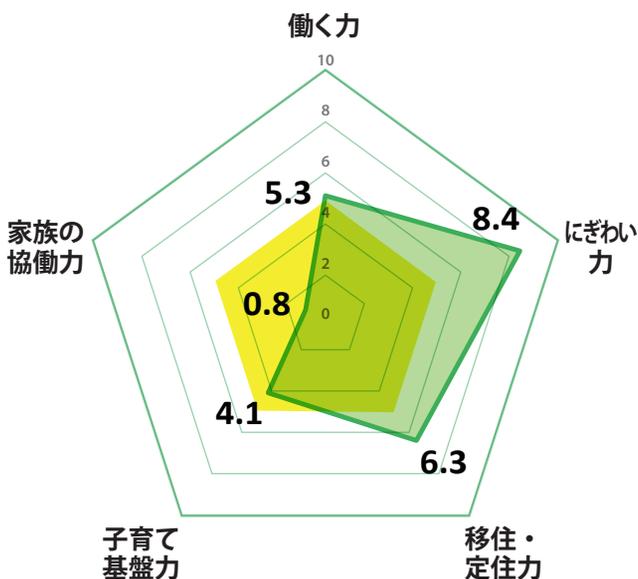
合計特殊出生率の変化  
(2000年~2020年)



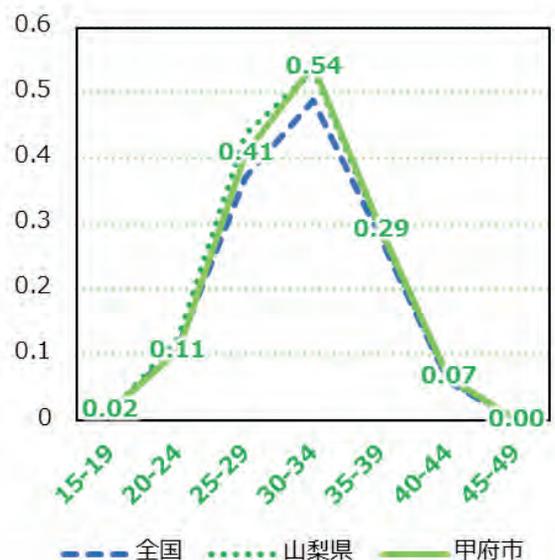
## 合計特殊出生率の要因分解(2018~2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

私は、人口減少・少子高齢化の進行を市政運営の最重要課題として位置付け、転入促進や転出抑制の取組による社会動態の更なる活性化や自然動態の底上げに資する少子化対策を、他自治体より力強く精力的に進めてきたものと自負しております。

今回の分析結果につきましては、数ある分析結果の1つであると受け止め、市民の皆様が未来に希望を持ち、幸せな生活を送り続けられるよう、引き続き諸施策を積極的に展開してまいります。



甲府市長  
樋口 雄一

## 我が街のアピールポイント

- 保育環境の充実・待機児童ゼロ  
保育園や子育て支援センター、放課後児童クラブの充実などとともに、保育所の待機児童ゼロを継続。
- 子育て負担に対する支援の充実  
妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談支援、地域子育て支援センターによる育児支援、県内他市町村に先駆けたアウトリーチ型産後ケア「おうちdeホッとママケア事業」等により子育てに係る不安や悩みを軽減するとともに、不妊治療費の助成や高校3年生相当までを対象とする「すこやか子育て医療費助成制度」等により経済的負担を軽減。
- 移住定住の促進  
東京圏からの移住に伴う支援や結婚後の新生活に必要な住居費等の経済的負担の軽減、圏域出身の大学生等が圏域内の企業を見学する「MIRAITOやまなし将来発見バスツアー」や圏域の高校生が学習成果を発表する「地域課題探究コンペティション」などの「県央ネットやまなし」における若年層の地元への就職や郷土愛を醸成する取組を通じて移住定住を促進。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 「子育て」「子育て」施策の充実

#### <目的>

子どもを育てる方々を支援し、未来を担う子どもたちの成長を応援するまちの実現のため。

#### <概要>

子育て支援としては、子ども家庭センターにおいてマイ保健師などが妊娠期から子育て期まで一人一人に寄り添いながら相談に応じ、様々なニーズに即した支援につなぐ伴走型の相談支援と妊娠子育て応援給付金による経済的支援を一体的に実施するとともに、子ども・青少年総合相談センター「おひさま・あおぞら」における相談支援の展開することで、安心して出産・子育てができる環境の整備に取り組んでいます。

子育て支援としては、子ども屋内運動遊び場「おしろらんど」の開設や子どもたちの体験の場を幅広く提供する「子ども応援フェスタ」等の開催、「子ども応援プラットフォーム」への登録団体の拡大による社会全体で子どもたちの育ちを応援する体制づくりに努め、こども育むまちの実現に向けて取り組んでいます。

## 分析

甲府市は全国の出生率に比べて0.11高く、結婚要因・夫婦の出生力要因ともにプラスである。とりわけ結婚要因の高さが全国の出生率との差を生んでいる。

夫婦の出生力要因では、第1子の寄与度が比較的プラスであるものの、第2子・第3子は弱い。とりわけ子供を3人持つ夫婦の割合が全国に比べて低い傾向にある。

要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、有配偶率は25-29歳の有配偶率が高いことが出生率の高さに影響を与えていることがわかる。全国の出生率に比べ、25~34歳の出生率が高いという特徴がみられる。

## 対策

地域力をみると、働け力・にぎわい力・移住定住力が結婚要因および第1子要因のプラスに寄与していることが確認される。この強みを基盤として、若い夫婦に選ばれる施策を一層強化することが、出生力向上への効果的な手段であると考えられる。

未来への  
処方箋



# 韮崎市

Nirasaki City

人口: 27,996人  
世帯数: 12,876世帯  
総面積: 143.69 km<sup>2</sup>  
人口密度: 194.84 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

# 1.23

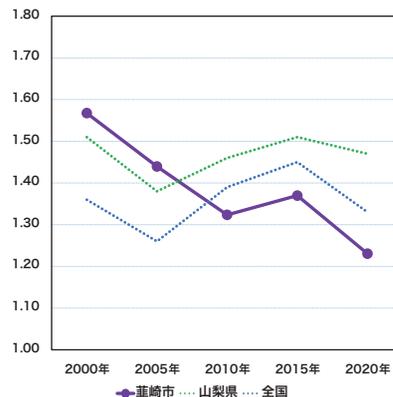
ベイズ推定値 **1.26**

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

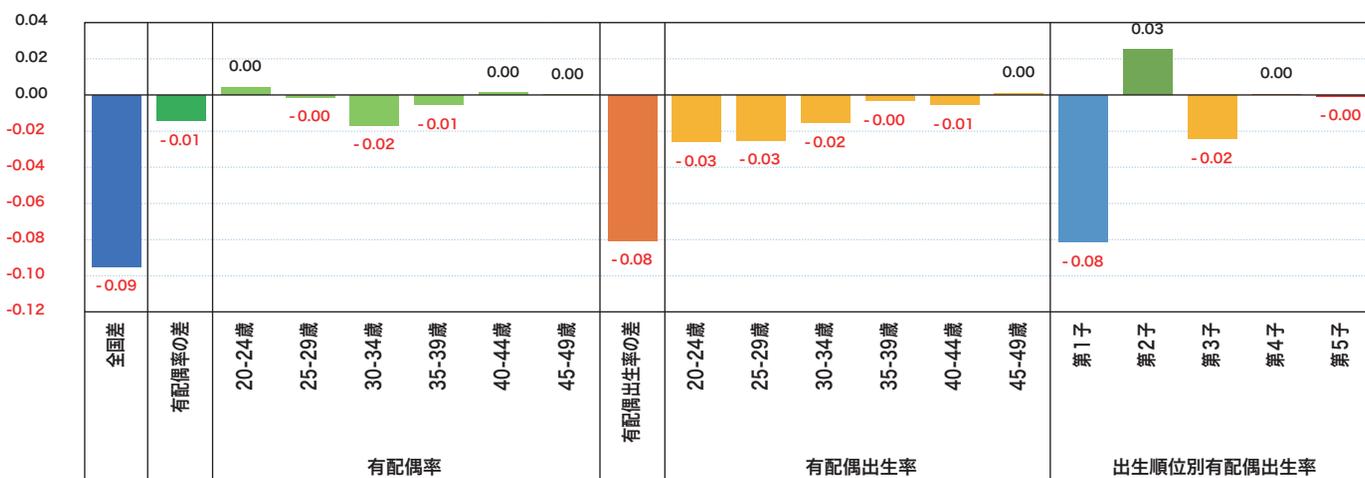
全国との差 **-0.10**  
ポイント

県内との差 **-0.23**  
ポイント

合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



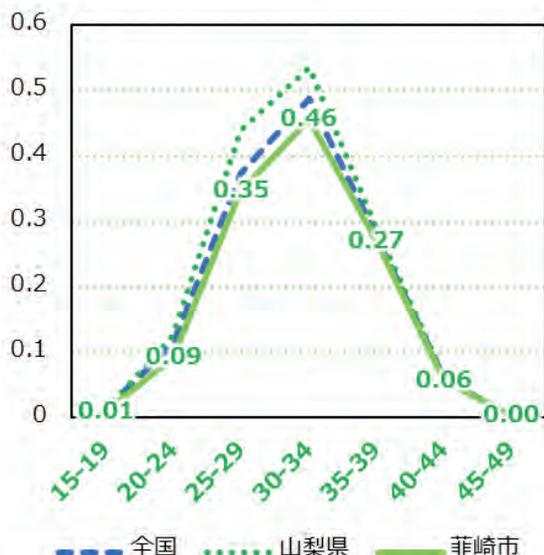
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

韮崎市では、「韮崎市子どもの権利に関する条例」の制定と、「韮崎市子ども計画」を策定いたしました。

初めての試みとして、子ども向け概要版を作成し、市内小中学校及び高等学校の児童生徒に、素案の内容を示したところ、多くの意見が寄せられました。

令和7年度は、その想いが集約された条例及び計画を指針に、市民全体で子どもの育ちを支え、権利と利益を最優先に考えることで、未来を担う子どもたちの視点に立った優しいまちづくりに取り組んでまいります。



韮崎市長  
内藤 久夫

## 我が街のアピールポイント

韮崎市は、「ものづくり」のまちで、半導体関連産業を中心とした工場では世界トップレベルの製品が多く作られています。また、日照時間が長くぶどうや桃などのフルーツ栽培が盛んです。最近では、韮崎駅周辺を中心に、若者の起業により続々とお店がオープンしています。首都圏からのアクセスも良くコンパクトなまちであるため、まち歩きをする方で街なかには賑わいを取り戻しています。さらに、ノーベル医学・生理学賞を受賞した名誉市民 大村智博士、阪急電鉄・宝塚歌劇団の創業者小林一三翁のほか、多くの偉人を生んだ活気あるまちです。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組

### つながるひろがる子育てプロジェクト事業

#### <目的>

令和7年3月末に制定及び策定の「韮崎市子どもの権利に関する条例」及び「韮崎市子ども計画」に基づき、各種子ども施策に注力した事業を展開してまいります。

#### <概要>

- 経済的な負担軽減と防災意識の向上
  - ・ 新生児へのおむつと防災グッズの配布
  - ・ 学校入学時の通学用カバンを無償配布
  - ・ 小中学校の学校給食の完全無償化
- 子どもの居場所づくり／地域の持続可能なコミュニティづくり
  - ・ 子ども食堂等のコミュニティ活動への運営費補助
- 権利についての啓発強化
  - ・ 子どもの権利を学ぶ啓発イベントの実施



## 分析

韮崎市は全国に比べて出生率が-0.09であり、夫婦の出生力要因の差が大きい。結婚要因についても若干マイナスであり、結婚要因・夫婦の出生力要因ともに課題がみられる。出生順位別にみると、第1子のマイナスの寄与が高く、第2子はプラスであるものの、第3子はマイナスとなり、若い夫婦の定住が進んでいないことが示唆される。

地域力でみると、働く力と子育て基盤力は平均よりも高いものの、にぎわい力・移住・定住力は平均よりも低く、家族の協働力は顕著に低い状況である。

要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、有配偶率要因では、20～30代において全国平均よりも低く、出生順位では第2子の寄与が高い他はマイナスの寄与である。年齢別出生率の分布でも20～30代の出生力が山梨県・全国よりも低いことがうかがえる。

## 対策

第2子が安定的であることから第3子に移行するためのインセンティブをつける支援(子育て世帯が利用可能な広い住居の供給など)などが有効であろう。

未来への  
処方箋



# 南アルプス市

Minami-Alps City

人口: 69,770人  
世帯数: 29,986世帯  
総面積: 264.14 km<sup>2</sup>  
人口密度: 264.14 人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



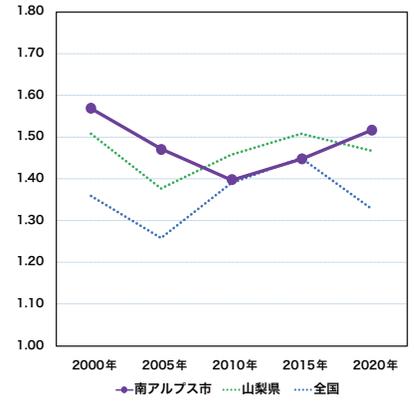
合計特殊出生率  
(2018年~2022年)

# 1.52

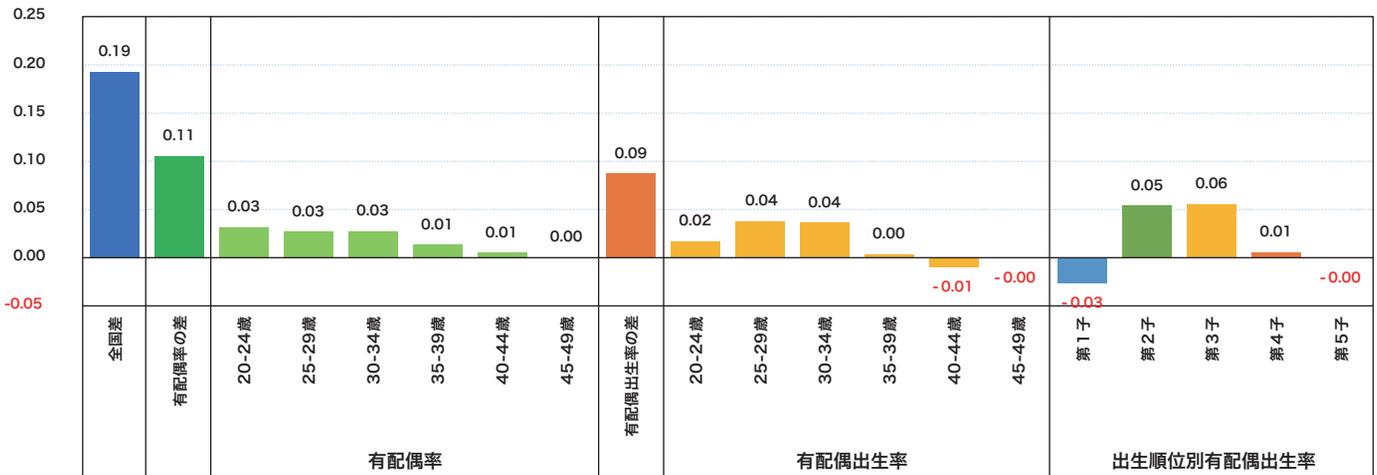
ベイズ推定値 **1.51**

合計特殊出生率(2018年~2022年)の  
全国との差 **+0.19**  
ポイント  
県内との差 **+0.06**  
ポイント

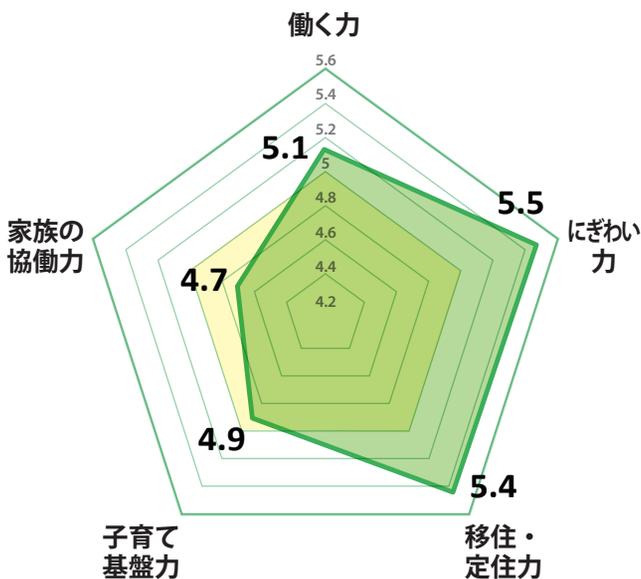
合計特殊出生率の変化  
(2000年~2020年)



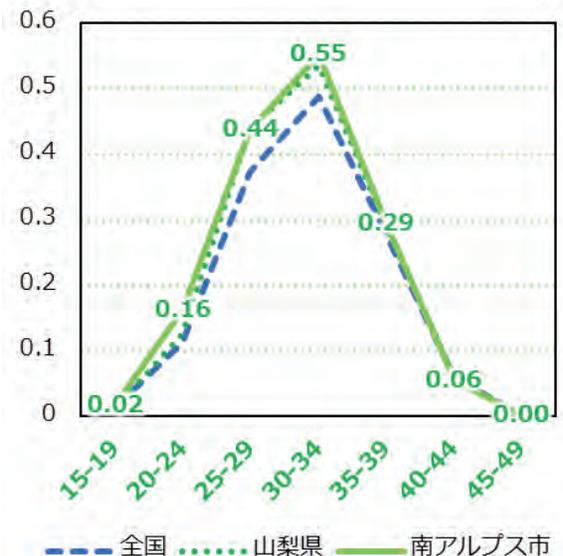
## 合計特殊出生率の要因分解(2018~2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

南アルプス市は、保育料の完全無償化や18歳までのこども医療費助成など、数々の子育て事業を実施して、子育てしやすいまちづくりを推進してきましたが、今後もさらに子育て施策に力を入れ、市民の皆さまが子育てに希望と喜びを感じられるよう、令和5年3月に「こども・子育て応援都市」を宣言しました。これからも、こどもと子育て世帯へのさらなる支援事業を実施し、こどもと共に成長するまちを目指していきます。



南アルプス市長  
金丸 一元

## 我が街のアピールポイント

南アルプス市は、山梨県の西部に位置し、日本有数の山岳地帯である南アルプスを擁した自然環境は、平成26年度にユネスコエコパークに認定されました。

一方、中央自動車道、東名高速道路等を結ぶ「中部横断自動車道」や、「新山梨環状道路」が交差する交通の要衝に位置しており、さらにはリニア中央新幹線の新駅に接続することで、大都市圏や港湾のみならず、世界を見据えた発展の可能性を秘めています。

南アルプス市の新たな玄関口「fumotto(フモット)南アルプス」では、大型集客施設である「コストコ南アルプス倉庫店」と、山と暮らすまちの魅力が集まる体験型複合施設との相乗効果により、多くの観光客や地域住民を迎えることが期待されます。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 「子育てするなら南アルプス市」子育てをみんなで応援できるまちを目指して

南アルプス市は、家庭や地域、学校、保育所等と力を合わせて、こどもと子育て世帯を力強く支援していきます。

- ① 子育ての不安や悩みを解消するための取組み:6か所ある子育て支援センターの設置、乳児家庭全戸訪問など
- ② こどもの健全な成長を支援する取組み:母子健康教育事業、18歳までのこども医療費助成など
- ③ 子育て家庭の負担を軽減する取組み:給食費の無償化、保育料の無償化、おもちゃ用品の一部助成など
- ④ 親としての成長を支援する取組み:マタニティスクール、パパママ学級など
- ⑤ 支援を必要とする子どもたちへのきめ細かい取組み:障がい児相談支援事業、途切れない支援事業など
- ⑥ 地域全体で子育てを支える取組み:6か所ある児童館の設置、ファミリーフェスタの開催など

## 分析

南アルプス市は、全国に比べて出生率が0.19高く、結婚要因・夫婦の出生力要因ともに同水準で高い。出生順位別にみると第1子要因がマイナスであるが、第2子・第3子要因が高く、定住している夫婦の出生力が安定していることを示している。

地域力でみると、にぎわい力と移住・定住力が顕著に高く、働く力も高い水準にあることから、若い夫婦の定住が進んでいることが示唆される。要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、有配偶率要因は20～30代で全国平均よりも高く、30～34歳の出生率は山梨県よりも高い水準にある。出生順位では第2子以降が高く、定住傾向と安定した出生力がうかがえる。

## 対策

子育て基盤力が平均であり、潜在的な保育・学童などの整備の必要性や広い住居の供給、共働きが可能な支援の可能性が示唆される。

## 未来への処方箋



# 北杜市

Hokuto City

人口: 43,057人  
世帯数: 22,123世帯  
総面積: 602.48 km<sup>2</sup>  
人口密度: 71.47人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



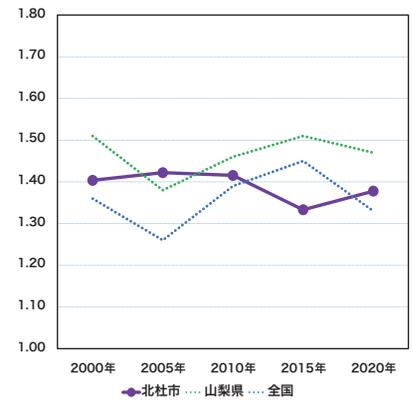
合計特殊出生率  
(2018年~2022年)

# 1.38

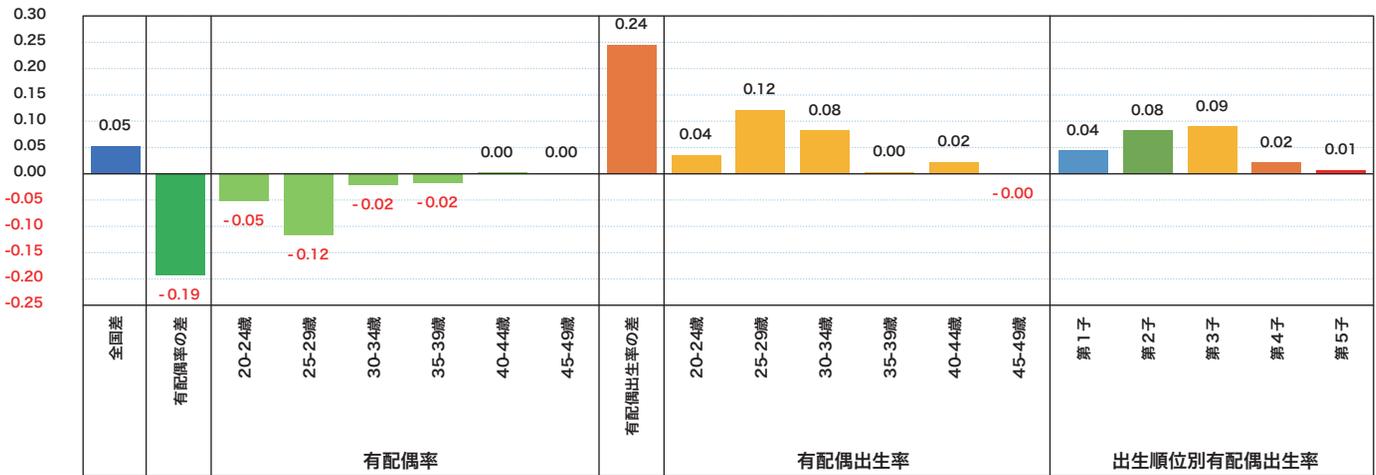
ベース推定値 1.39

合計特殊出生率(2018年~2022年)の  
全国との差 **+0.05** ポイント  
県内との差 **-0.08** ポイント

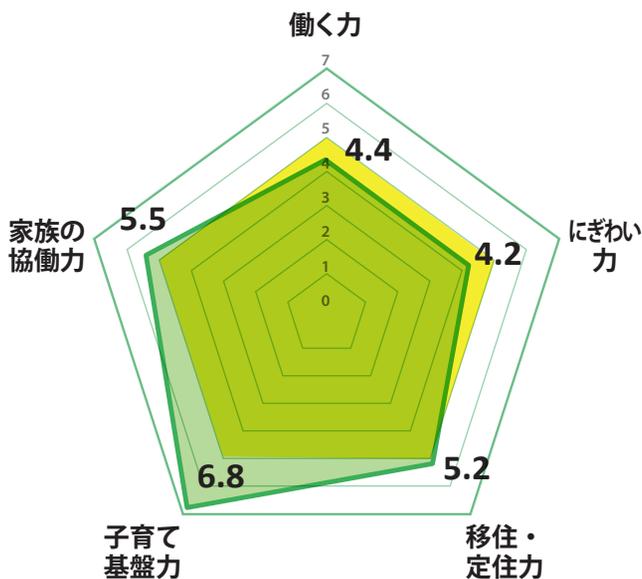
合計特殊出生率の変化  
(2000年~2020年)



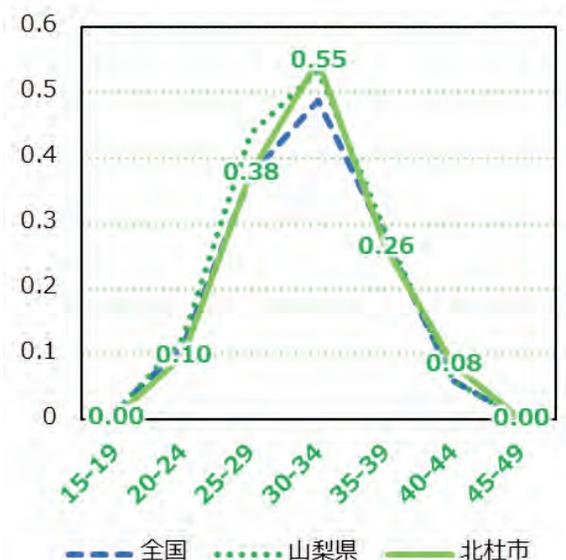
## 合計特殊出生率の要因分解(2018~2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

北杜市では、子育て支援や移住・定住支援などに先駆けて取り組み、若い世代が暮らしたいと思える魅力あるまちづくりに取り組んできました。しかしながら、人口減少や少子化は依然として歯止めがかからず、喫緊の課題となっています。

今後も市民、地域、企業、団体、周辺自治体など、関係する全ての皆様と手を携え、絆を深めながら、この大きな課題に立ち向かい、北杜市を前へ進めてまいります。



北杜市長  
大柴 邦彦

## 我が街のアピールポイント

北杜市は県北西部に位置しており、

○八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳といった名山群に囲まれ、南アルプスと甲武信の2つのエコパークを有する唯一の自治体

○名水百選に3カ所が選定され、ミネラルウォーター生産量日本一の名水の里

○日本一の日照時間の長さをもたらす太陽の恵みなど、豊かな自然環境を背景に農業や観光産業が盛んに行われています。

また、子育て支援住宅や子育て世代マイホーム補助金など、大胆な子育て支援施策を積極的に展開しており、移住先としても高い人気を誇る地域です。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 子育て支援住宅

#### <目的>

誰もが安心して子どもを産み、育てる喜びを実感できるまちを目指し、子育て世帯の定住を促進するため、安心して子育てができる住環境を整備しています。

#### <概要>

ミキハウス子育て総研株式会社の「子育てにやさしい住まいと環境」認定を受けた、子育て世帯が快適に暮らせる住宅を、学校や保育園の近くに整備することで、安全・安心な子育て環境を提供しています。さらに、近隣の家賃相場よりも低く賃料を設定することで、一戸建て家屋の建築費用を貯蓄しやすくし、市内への定住を促進しています。

平成27年度から順次建設を開始し、現在、市内には3棟54戸が整備されています。これらの住宅は人気が高く、多くの子育て世帯に選ばれています。

## 分析

北杜市は、全国に比べて出生率が0.05高く、その主な要因は有配偶出生率の高さが結婚要因のマイナスを補うことで全国よりも高い出生力を示している。出生順位別にみると、夫婦の出生力は第1～3子まで安定的にプラスの傾向があり、定住している夫婦の出生力は安定的である。

要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、有配偶率は20～30代まで全国に比べて低く、有配偶出生率は総じて高い傾向にある。年齢別出生率分布では、30～34歳の出生力が高いことを示しており、30代での夫婦の定住傾向が高い夫婦の出生力を示していると解釈ができる。

## 対策

地域力は、子育て基盤力が高く、家族の協働力が高いことなど、子育て環境が整備されていることが高い有配偶出生率の高さを反映している。移住・定住力も県平均並みであり、結婚した夫婦の定住に寄与している可能性がある。一方で、働く力、にぎわい力が平均よりも低いため、未婚若年者の定住が進んでいない可能性を示唆している。子育て層の雇用の安定や所得の向上に資するような対応策が求められる。

未来への  
処方箋



# 甲斐市

Kai City

人口: 75,739人  
世帯数: 34,834世帯  
総面積: 71.95 km<sup>2</sup>  
人口密度: 1052.66人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

# 1.71

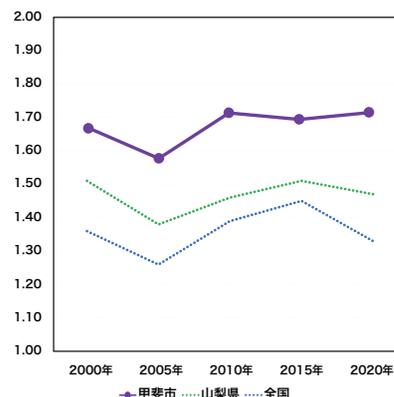
ベース推定値 1.70

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

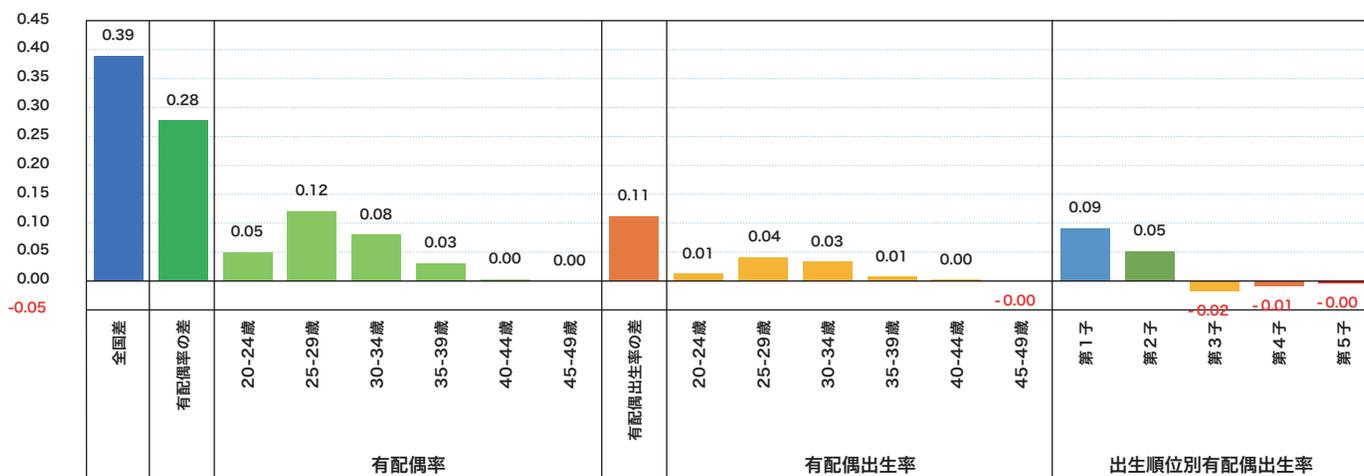
全国との差 **+0.38**  
ポイント

県内との差 **+0.25**  
ポイント

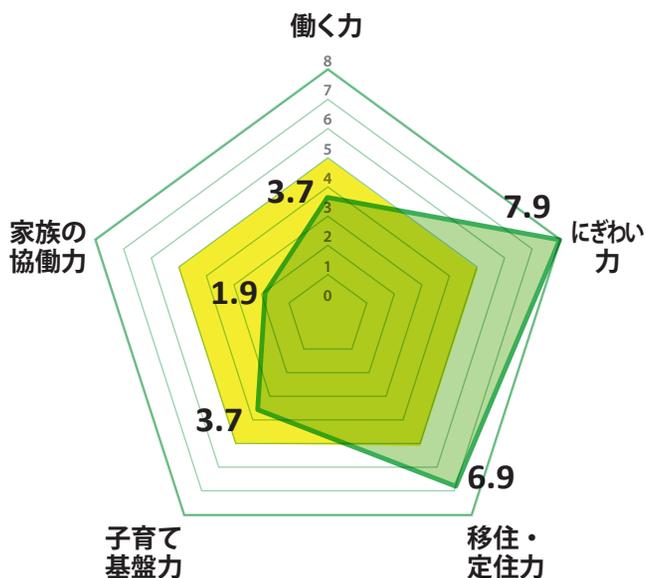
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



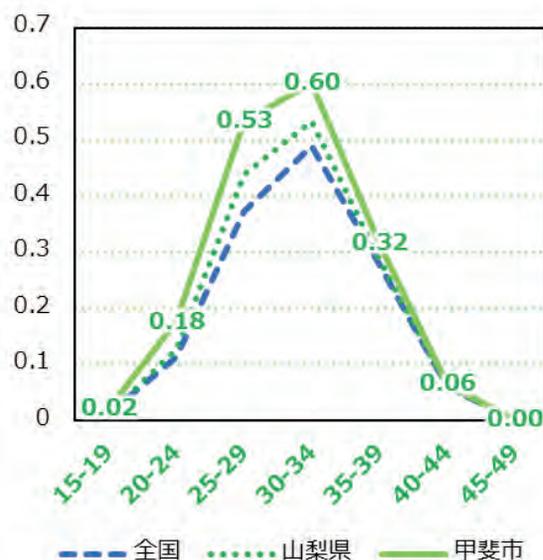
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

甲斐市では、「甲斐市版ネウボラ事業」により、妊娠・出産・子育て期に至るまでの切れ目のない支援体制の充実を図るため、子育て世代包括支援センターを中心に、女性が住みやすく安心して子育てができるよう、市や地域・保育園・学校・医療機関などが連携しながら子育てに対するサポートを推進しています。

また、子育て支援の新たな場を提供するため、(仮称)篠原地区公園内に雨の日でも遊ぶことが可能な屋内遊戯スペースのほか、体験学習室などの機能を有した「子ども体験学習施設」を2026年度中のオープンに向け整備しています。



甲斐市長  
保坂 武

## 我が街のアピールポイント

甲斐市は、山梨県中央の甲府盆地に位置し、住宅地と農地を有する平坦な市街地が広がる南部地域と、豊かな森林資源や自然景観を有する北部地域で構成されています。

南部地域は、甲府盆地の北西部を流れる釜無川の度重なる氾濫と、氾濫を鎮める人々の知恵と努力が肥沃な砂質土壌を生み、四百数十年を経て今も雄々しい姿をとどめる信玄堤があります。また、北部地域は、秩父多摩甲斐国立公園に指定される森林地帯で、日本遺産御嶽昇仙峡などの景勝地を有し、自然条件を生かした果樹栽培やワイン醸造など観光地としての特性を有しています。

また、赤坂台周辺地域に株式会社サンリオがミュージアムの開業を予定しており、今後、さらなる関係人口の創出及び地域経済の活性化が期待されることから、新たなまちづくりに取り組んでまいります。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



「子育てかいてきBOX」で支給している主な品目

甲斐市では、子育て世帯の不安感・負担感を防ぐために様々な子育て支援策によりサポートしています。

<主な取組内容>

- 甲斐市版ネウボラ事業  
妊娠・出産・子育て期に至るまでの切れ目のない支援体制が充実しています。
- 子育てアプリ「かいふあみダイアリー」  
妊産婦と子どもの健康データの記録・管理や予防接種等のスケジュール管理、出産・育児に関するアドバイスや地域の子育て情報の発信など便利な機能が充実しています。
- 子育てかいてきBOXの支給  
お子さまが生まれた世帯(家庭)に育児用品(おむつ、おしりふきなど)を支給しています。その他、18歳までの医療費窓口無料化など、多数の子育て支援策を実施しております。

## 分析

甲斐市は、全国に比べて出生率が0.39高く、結婚要因のプラスの寄与度が特徴的であり、夫婦の出生力要因もプラスとなっている。出生順位別にみると、第1・2子の寄与度がプラスで第3子がマイナスとなり、結婚して定住する若年夫婦の定住が進むことにより高い出生力を達成していることがわかる。

地域力で見ると、にぎわい力・移住定住力が顕著に高く、働く力は平均よりも低い。これは典型的な都市近郊のベッドタウンであることを示しており、若い夫婦の居住選択先となっていることを示唆する。

要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、有配偶率は20～30代で寄与度が高く、とりわけ25～29歳の寄与が高い。年齢別出生率で見ても、25～34歳の出生力が全国・山梨県の値よりも顕著に高い分布となっている。

## 対策

子育て基盤力は平均よりも低く、家族の協働力も大きく平均を下回っていることから、共働きを下支えするための保育・学童の充実や住居の供給などの支援の必要性が求められる。

未来への  
処方箋



# 中央市

Tyuoh City

人口: 30,882人  
世帯数: 14,057世帯  
総面積: 31.69 km<sup>2</sup>  
人口密度: 974.50人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年~2022年)

# 1.27

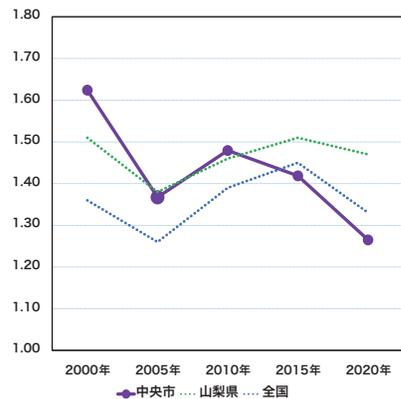
ベイズ推定値 1.28

合計特殊出生率(2018年~2022年)の

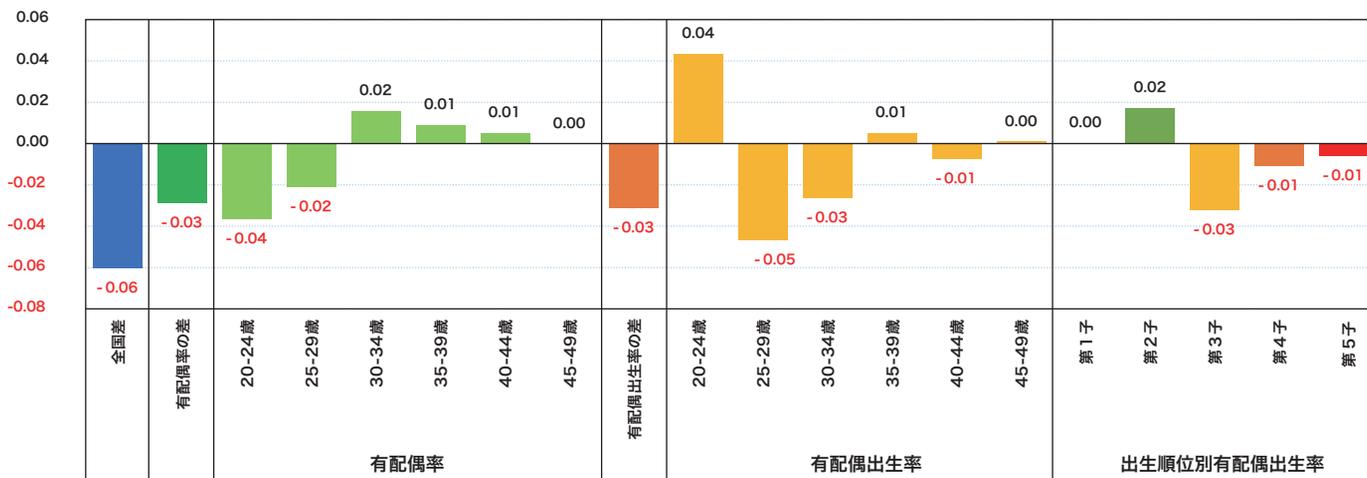
全国との差 **-0.06**  
ポイント

県内との差 **-0.19**  
ポイント

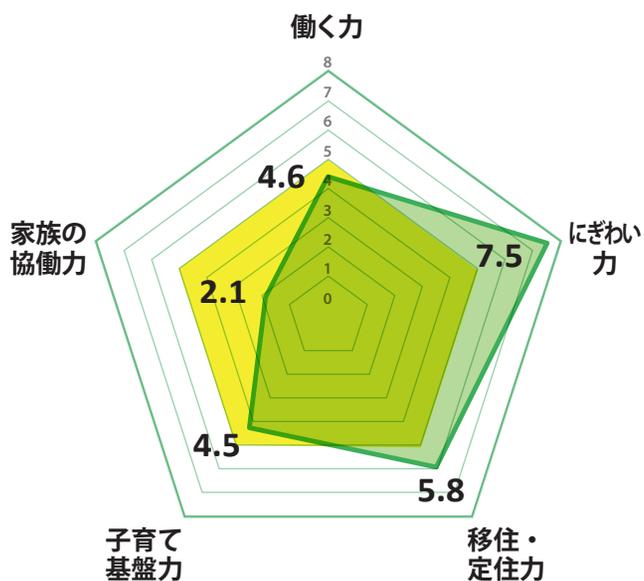
合計特殊出生率の変化  
(2000年~2020年)



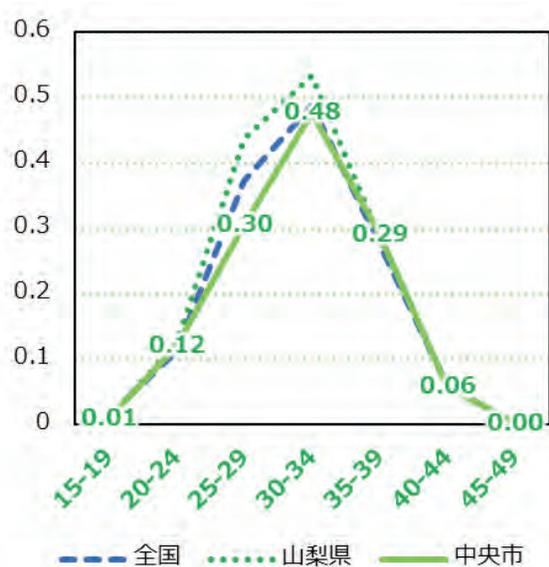
## 合計特殊出生率の要因分解(2018~2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

子育ての楽しさを実感してほしい。そして、未来へ羽ばたく子どもたちを応援したい。

急激に進む少子高齢化の中で、この国の未来を支えるのは子どもたちです。

中央市では、「安心して妊娠・出産・子育てができるまちづくり」に向けて、引き続き保育・教育環境の充実を推進するとともに、働く親世代のみなさまが心身共に充実した中で、育児と仕事を両立できるよう更なる支援の拡充を図ってまいります。



中央市長  
望月 智

## 我が街のアピールポイント

中央市は、山梨県のほぼ中央に位置し、中央自動車道、中部横断自動車道、新山梨環状道路などのインターチェンジに近接し、都心や静岡、長野方面への移動もスムーズであるほか、鉄道では、JR中央線にも接続するJR身延線駅が2駅あり、交通の要衝として発展してきました。

また、三大都市圏を約1時間で結ぶリニア中央新幹線の山梨県駅が本市に隣接しており、リニアの開業により、その利便性はさらに増すとともに経済的な発展も期待される地域です。

一方、生活面では、大学病院や商業施設のほか、豊かな自然環境の里山エリアも有す田園都市として、「実り豊かな生活文化都市」を将来像に今後も更なる発展に向けてまちづくりを進めています。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### <目的>

若い世代の皆様が希望される「結婚・出産・子育て・教育の実現」に向けて、強力にサポートさせていただきます。

### <概要>

- ベビークーポン券支給事業：乳児用品購入券3万6千円分を支給
- 高校生世代までの医療費助成制度
- 保育料は完全無償化、主食も含めた給食を提供、おもつの持ち帰り廃止
- 学習意欲向上促進事業：英語検定などの受験料を助成
- 奨学金返還支援事業：年間20万円、5か年間に上限に支援
- 若者世帯定住促進・子育て応援補助金：土地と建物の購入に併せて、転入50万円、転居25万円、18歳未満の子ども一人当たり10万円を支給
- 子育て支援センター（しんちび）：県下最大規模でイベント内容も充実。育児相談も行っています。

## 分析

中央市は、全国に比べて-0.06と出生率が低く、結婚要因、夫婦の出生力要因ともに同水準でマイナスの寄与度となる。出生順位別にみると、第2子要因はプラスであるが、第3子要因がマイナスである。

要因分解結果を年齢別有配偶率・出生順位別有配偶出生率に分解した結果では、30代の有配偶率はプラスに寄与しているものの、20代の有配偶率が低いことが特徴であり、年齢別出生率をみても25～29歳の出生力が全国や山梨県に比べて低いなど、若い夫婦の定住につながっていない状況がうかがえる。

## 対策

地域力では、にぎわい力・移住定住力は平均よりも高いが、働く力・子育て基盤力が低く、家族の協働力が顕著に低いことが低い出生力要因に影響を与えていることが示唆される。甲府市の郊外市として若い夫婦を受け入れることにはある程度成功しているが、定住した夫婦の出生力の向上にはつながっていないため、多子世帯に対する支援や親世代との近居・同居支援、若い夫婦に対する住宅供給などが考えらえる。

# 未来への 処方箋



# 昭和町

Showa Town

人口: 21,669人  
世帯数: 9,606世帯  
総面積: 9.08 km<sup>2</sup>  
人口密度: 2,386.45人/km<sup>2</sup>

※令和6年8月15日現在



合計特殊出生率  
(2018年～2022年)

# 1.68

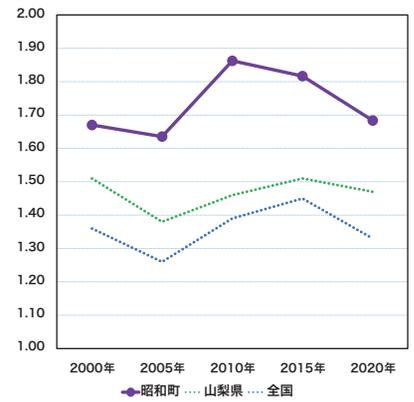
ベイズ推定値 **1.65**

合計特殊出生率(2018年～2022年)の

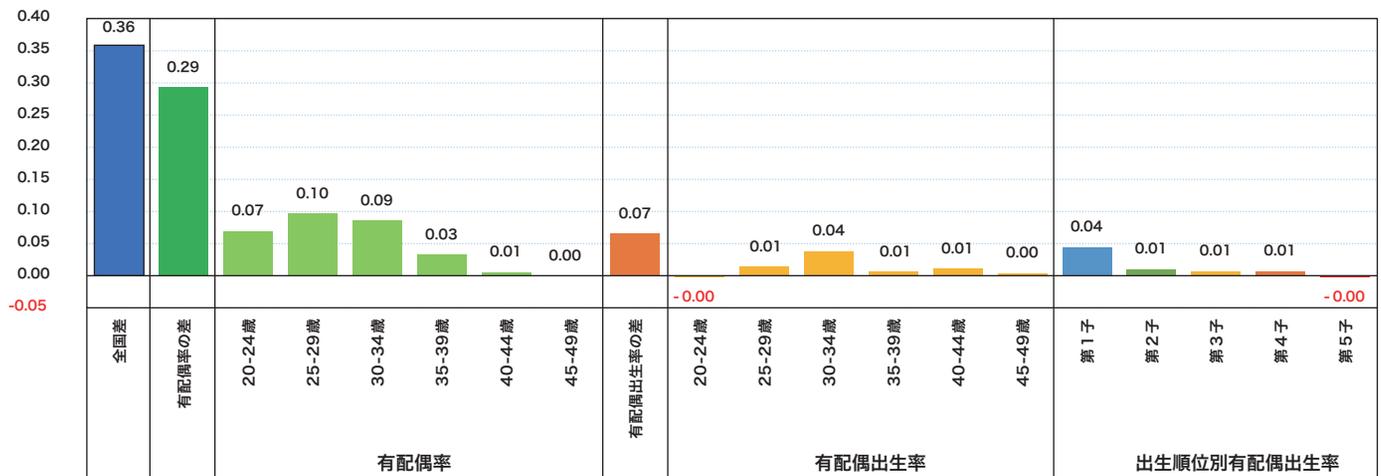
全国との差 **+0.35**  
ポイント

県内との差 **+0.22**  
ポイント

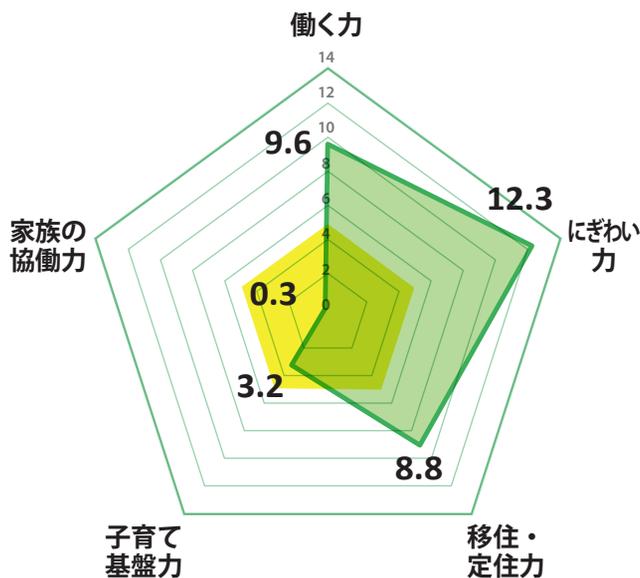
合計特殊出生率の変化  
(2000年～2020年)



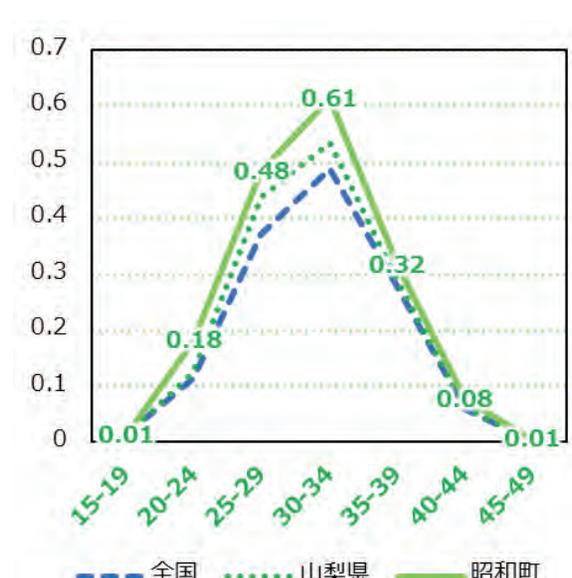
## 合計特殊出生率の要因分解(2018～2022年・全国差)



## 合計特殊出生率に影響を及ぼす5つの地域力



## 女性の年齢別出生率



## 首長からひとこと

昭和町は、これまでのまちづくりにおいて、工業団地の整備や12回に及ぶ土地区画整理事業、それに伴うインフラ整備などにより快適な住環境を整え、加えて、子育て支援や教育環境、健康づくりなどの福祉施策の充実に積極的に取り組んでまいりました。

そのことが昭和46年の町制施行以来、これまでの国勢調査において、一度も人口の減少が確認されたことがない、現在も人口増加を続けている賑わいのある町である礎となっております。



昭和町長  
塩澤 浩

## 我が街のアピールポイント

昭和町は、甲府盆地のほぼ中央に位置し、南には富士山、北には八ヶ岳連峰など周囲を高い山々に囲まれた面積9.08k㎡の山梨県内で「一番小さな自治体」であります。また、県内で唯一「山のない自治体」でもあり、その平坦な地勢という地理的条件を活かし、衣食住のコンパクトな町を形成しています。

本町には、山梨県の玄関口とも言える甲府昭和ICがあり、また国道、県主要道なども通過するなど交通立地に恵まれています。さらに、その町内には、大型の商業施設をはじめ、数多くの飲食業、サービス業などが出店しており、生活利便性が高く、賑わいのある町です。また、公園や医療機関も多くあり、子育てや健康増進にも最適な町と言えます。

## 少子化突破に向けた特徴的な取組



### 土地区画整理事業

#### <目的>

事業を通して宅地やインフラを整備することで、地域の活性化を図るとともに、快適な住環境と安全で安心な暮らしの実現、さらには生活利便性の向上を図ることを目的とする。

#### <概要>

これまでの大型の土地区画整理事業では、大型商業施設の誘致を行い、その施設を地域の核として賑わいがもたらされている。また、事業を通じて整備した公園が多数あり、子どもたちの遊び場として、大人の健康づくりの場として親しまれている。さらに、人が集まったことにより、生活に必要な施設などの出店が進み、より利便性の高い町となっている。

## 分析

昭和町の出生率の全国差は0.36で、結婚要因の大きなプラスの寄与度ならびに夫婦の出生力要因もプラスになるなど、甲府市の郊外地域として高い定住性を示している。第1子の寄与度が高いなど、若い夫婦の選択されている傾向がうかがえる。地域力をみると、働く力・にぎわい力・移住・定住力が高い点で結婚要因を促進している状況がうかがえる。

年齢別にみた有配偶率では、20～34歳のプラスの寄与度が高く、年齢別出生率も全国・山梨県よりも高い25～39歳の出生率となっている。

## 対策

子育て基盤力や家族の協働力は平均よりも低いため、両立支援のさらなる充実が求められる。

未来への  
処方箋

